

# クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより

No.57

10月

2022/令和4年



## 今回のトピックス

### 消化ガス発電事業を開始しました

クリーンレイク諏訪では、下水の処理過程で発生する消化ガス（メタンガスを主成分とするバイオガス）を有効利用する取組として、消化ガスを燃料とした民設民営による発電事業を令和4年10月から開始しました。

本事業は県が消化ガスを発電事業者（月島機械株式会社・ヤンマーエネルギーシステム株式会社・TC月島エネルギーソリューション合同会社諏訪湖流域下水道豊田終末処理場消化ガス発電事業共同企業体）に売却し、発電事業者が処理場内に発電施設を設置してFIT（固定価格買取制度）により売電するものです。

県内には下水道事業者が直営で消化ガス発電事業を行っている処理場はありますが、民設民営によるものは当処理場が県内で初めてになります。

令和3年2月24日に県と発電事業者で基本協定を締結し、発電事業者により各種手続きや設備の設置工事が進められ、このたび全ての設備が完成したことから、令和4年10月1日（土）にご来賓の方々にご臨席いただき、発電開始式を開催しました。

脱炭素の取組として、下水道資源を有効活用する本事業を官民連携して行ってまいります。

（基本協定締結につきましては、諏訪湖だより No.53 をご参照ください。）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwakoryuiki/topics/documents/suwakodayori53.pdf>



消化ガス発電施設



発電開始式（発電設備起動）

## 下水道ふれあい見学会を開催しました

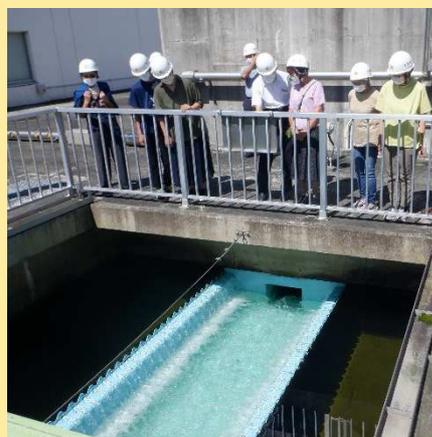
諏訪湖流域下水道の役割や下水道整備の重要性等について、諏訪地域の住民の方々に理解を深めていただくため、『下水道ふれあい見学会』を令和4年9月10日（土）に開催しました。

当処理場の水処理・汚泥処理の仕方や下水道により諏訪湖の水質が改善されてきた様子を説明したDVDを鑑賞したり、水を入れたペットボトルに紙（トイレtpーパー、ティッシュペーパー）を溶かして比較する実験を行ったりした後、処理場内の施設を見学しました。

ご参加いただいた12名の方々からは、「下水処理の仕組みがわかった」「普段は見られない施設が見学できて興味深かった」「日常の生活排水にも気を付けるように心掛けたい」といった感想が聞かれました。



下水道の学習



処理場内の見学（急速砂ろ過池）

## ガスタンクの修繕が完了しました

当処理場には、消化ガスを貯留するガスタンクが2基あります。このうち、1号ガスタンク（高さ約25m）について、令和4年4月から修繕工事を行ってききましたが、8月末に完了し、9月から貯留できる状態になりました。

ガスタンクは、汚泥焼却設備（燃料）や、10月から稼働開始した消化ガス発電施設へ安定的にガス供給するための重要な設備です。今後も2号ガスタンクとともに日常点検などを実施し維持管理してまいります。



1号ガスタンク（修繕後）